



鎌田 千市 1001 Kamada

東洋大学国際PPP研究所
リサーチパートナー

分野

PPP/PFI総論・公的不動産利活用
・まちづくり・市民参加

訪問可能地域

全国

相談手法

メール・SNS・電話

経歴

1993 紫波町役場入庁
2007 紫波中央駅前都市整備事業に従事
2007 東洋大学大学院公民連携専攻修了
2009 紫波町公民連携基本計画策定
2017 国土交通省PPPサポーターに任命
2025 紫波町役場退職

PPP/PFI事業導入を検討されている方へのメッセージ

- ◆オガールプロジェクトは、民間主導型公民連携による町有地10.7haの複合開発です。行政手続きを一つ一つ丁寧に積み重ね、民間活力の誘導を図ってきました。
- ◆遊休公有不動産の活用で大事なものは、営業による民間活力の誘導と、住民の納得解を探し、機会損失とならないよう柔軟に対応していくことだと思います。
- ◆2025年10月10日、紫波町役場を退職しました。

共有できる知識・経験

- ◆構想や計画の策定、協議会等の設置、民間活力の誘導、公民連携手法の活用、第三セクターの設立、庁内調整、住民との合意形成、施設整備と運営など
- ◆遊休公有不動産の活用に係る行政手続き
- ◆リノベーションまちづくり、AIデマンドバスの運行
- ◆学校跡地活用

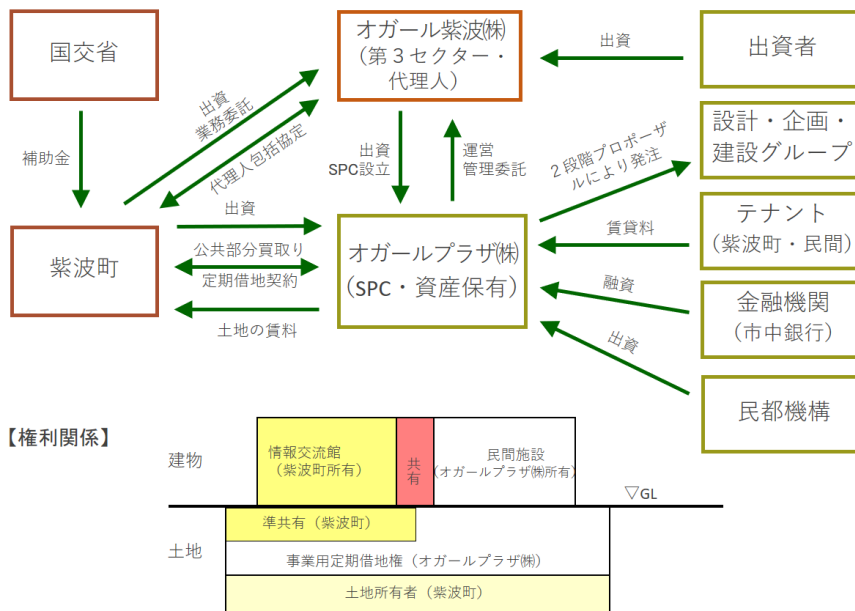
活動実績【中心的な役割を担ったPPP/PFI事業等】

- ◆紫波中央駅前都市整備事業（通称「オガールプロジェクト」）：JR紫波中央駅前の町有地において、民間主導型公民連携（第三セクター、オガール紫波㈱）により、図書館や役場庁舎といった施設整備と民間の経済開発の両立を図りました。
- ◆紫波町旧庁舎敷地活用事業：地元協議会の運営、市民参加、民間対話の実施、庁内調整、実施方針策定、公募プロポーザル、旧庁舎解体負担金の支出といった行政手続きを踏み、民間複合施設「ひづめゆ」の整備に至りました。
- ◆7つの学校跡地活用：紫波町学校跡地活用基本方針（産業の振興、人材の育成）を踏まえ、元学校ごとに基本方針を作成し、公募プロポーザルで事業化を図りました。ノウルプロジェクトでは農業の再編集と人材の育成の両立を推進しています。

連絡先

電話 -
メール kamada1001@gmail.com

官民複合施設『オガールプラザ』整備事業のストラクチャー



サポーターとしての相談実績

- ◆行政職員：公有地を活用したい、学校跡地を活用したい、図書館整備の考え方を知りたい、第三セクターの設立を知りたい、道の駅を整備したい、官民複合施設（区分所有建物）に関する契約を知りたい、市民との合意形成をどう進めたのか知りたい、デザイン会議の組成と運営方法を知りたい、広場の設置と運用の実態を知りたい、庁内調整をどう進めたか知りたい、人材育成をどう進めてきたか知りたい、ほか
- ◆民間事業者：官民連携によるまちづくりの進め方を知りたい、公有地開発の進め方を知りたい、資金調達をどうしたか知りたい、紫波型エコハウス基準による宅地分譲を知りたい、日常と非日常の使われ方を知りたい、オガールプロジェクトの効果を知りたい、ほか